

平成28年度  
事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会  
インターワーク  
就労継続支援B型事業  
生活介護事業

## 目 次

1、はじめに	1
2、利用者状況	1
3、福祉事業報告	2～3
4、就労支援事業報告	4～8
5、防災関連	9
6、職員処遇	9
7、その他	10

## 平成28年度 事業報告

### 社会福祉法人 やまなみ会 インターワーク

#### 1、はじめに

利用者の方々の高齢化が進むなか、持病の悪化や作業能力の低下などにより就業に支障が目立ってきている方も少なくないため、将来を見据えた支援のプラン作りに取り組んできた。さらに、施設目標でもある利用者様のそれぞれのニーズに沿った支援を行い、自立に向けた訓練や作業スキルの向上を目指し活動し、無理なく健康で毎日を安全に過ごせるよう、医療機関や市町村、グループホーム等と連携しながら利用者の方々の健康管理における支援を行ってきた。

又、今年度は熊本県を震源地とする大規模地震に見舞われ、利用者の方々には大変不便な環境であったと思われるが、利用者、職員共々が一丸となってこの危機的状況乗り越え、支え合ってきた一年となった。

#### 2、利用者状況（平成28年3月末現在）

生活介護事業は、1名減員し、新規利用に繋がる医療機関や市町村へのアポイントを積極的に行ったが、定員増に繋がらなかった。就労継続支援B型事業は、同法人A型事業所への中途移動、退所を含め2名の減員となったが、阿蘇総合支援センターを仲介し1名の増員があった。新規利用はあったが定員25名に満たなかったのが現状であるため更なる向上が必要となる結果となった。

又、本年度は退所者が3名であったが、退所理由は以下のとおりである。

- ・家業後継の為
- ・実家に近い施設を利用希望の為
- ・作業スキル向上の為

##### ・利用者状況

サービスの種類	定員数	利用者数	利用可能数	年間平均利用率
就労継続支援B型	25名	19名	6名	77.0%
生活介護	6名	4名	2名	74.9%

##### ・利用実績状況

H28年度利用者実績報告書は、参考資料①及び②を参照のこと。

### 3、福祉事業報告

#### ①個別サービス計画の策定

年度初めにケース担当職員が、アセスメントを行い、ケース会議にてサービス管理責任者の指示の基に個別支援計画を作成し、モニタリングを行い支援計画の見直しを行った。

#### ②利用者の支援記録に関すること

随時、関係職員やケース担当職員毎日記入を行い、記録管理を行った。

#### ③事務手続きに関すること

ご本人の依頼のもと各種受給者証を始めとする事務手続きの代行を行った。

#### ④家族及び関係機関との連絡に関すること

必要に応じて、家族及び関係機関等に連絡や相談を行った。病気の為の緊急連絡や帰省時の連絡調整など本人様に代わって行った。

#### ⑤医療に関すること

- ・年1回の健康診断の実施（全利用者実施）
- ・通院送迎支援

阿蘇やまなみ病院・坂梨ハートクリニックへの通院送迎や緊急時の病院送迎を行った。又、家族の支援が困難な利用者の方には、入退院時の準備や送迎、関係各位への連絡の支援を行った。

- ・施設内診療

阿蘇きずな歯科医院・坂梨ハートクリニックによる訪問診療の実施

- ・各種予防接種

インフルエンザ予防接種の実施（対象：全利用者・職員）

肺炎球菌予防接種の実施（対象：65歳利用者2名）

- ・服薬管理

自己管理の苦手な利用者を対象に助言や声掛けを行い、毎日の服薬管理を行った。

#### ⑥食事

個々の体調の状況や好みに応じて献立メニューの変更を実施した。また、施設内農園にてみんなで育てた野菜を使用したメニューを取り入れ、残食

の減少や給食費のコストカットに努めた。

⑦買い物支援

月数回、希望者を対象に買い物支援を実施した。阿蘇市内のスーパーや衣料品店等依頼に応じて送迎支援を行った。

⑧苦情解決に関すること

利用者の方々からの要望・苦情に関することは、傾聴・共感・受容に心がけ迅速に処理を行い、内容に応じて苦情解決責任者の指示を仰ぎ、対応した。

又、再発防止に向けて、全職員でのマニュアル作りに取り組んだ。

⑨H28年度施設実施行事

平成28年	4月	・お花見 ・誕生日会
	7月	・七夕祭り
	12月	・クリスマス会
平成29年	1月	・初詣
	2月	・節分

熊本大震災の影響により施設内食堂の再開が滞り、毎月の恒例行事であるお誕生日会がほぼ実施できなかったのが現状であった。

⑩福祉事業収入について

現在の在籍利用者数に対し実際に利用稼働している割合が少ない為、給付費収入は年々減収の傾向にある。また、自立支援給付費の基本額改定の減額も要因ではあるが、利用者の方々の持病の悪化や高齢による出勤率の低下も今後の課題ともなる要因の一つである。

次の表はインターワークでの自立支援給付費の過去3ヶ年の比較である。

3ヶ年収入推移【平成26年度～平成28年度】

	介護給付費	訓練等給付費	自立支援給付費合計
平成26年度	8,955,840	33,567,160	42,523,000
平成27年度	8,701,060	31,705,991	40,407,051
平成28年度	8,046,890	27,196,077	35,242,967

## 4、就労支援事業報告

### ①重点目標

- ・本年度は、利用者の方々のニーズに沿った作業支援に心掛けた。利用者の方々の（やってみたい）を実践できるよう各事業において、個々の支援計画をもとに作業を行った。
- ・月間のスケジュールを組むことで、製作・完成・納品までの一連の時間の流れを把握し作業効率アップに努め経費の削減と合わせ無駄をなくす努力をした。
- ・体調不良による遅刻早退欠勤をなるべくなくすため、体調のすぐれない利用者方には作業を軽減し、無理のない就労ができるよう支援した。
- ・時間に対する認識が不十分な利用者の方には、作業中・休憩中のメリハリはもちろん、清掃中も協力し合い時間内にきちんと終了ができるように活動支援を行った。
- ・身だしなみが習慣付く様、朝礼や終礼、また気づいた時に声掛け等の支援をした。

### ②平成28年度利用者工賃

月	B型工賃支給総額 (円)	平均工賃 (円)	備考
4月	266,570	13,329	19名
5月	324,633	17,086	19名
6月	356,866	18,782	19名
7月	405,165	20,258	19名
8月	406,850	20,343	19名
9月	347,483	18,289	18名
10月	335,800	17,674	18名
11月	319,420	16,812	18名
12月	242,315	12,753	17名
1月	208,985	10,999	17名
2月	177,730	9,354	18名
3月	246,790	12,989	18名
平成28年度	3,638,787	15,722	17.4人 (平均)

平成28年度目標工賃（就労B型）	15,800円
平成28年度工賃実績（就労B型）	15,722円（月平均）
・最高工賃支払額・・・・・・・・	63,810円

月平均額は前年度より下回っている。低下の主な要因としては、私用での遅刻・早退や、高齢による機能低下、また体調不良や精神状態の不穏が原因で出勤できず、実際の作業時間に反映されないのが現状で、個人の最低・最高支払額にも大きく差がでている。

### ③珈琲事業

#### ・ドンゴロス

引き続き作業場の整理整頓を徹底し、作業効率の向上に努め、無駄な時間が減るよう器具・材料の保管場所を明確にして作業の時間短縮に繋がった。無駄なく材料を使いコストの削減に努めながらクオリティの高い製品づくりを心がけた。また少しずつではあるが、できなかった工程ができるようになり、作業能力が上がってきている。

製品については、従来の商品に加え、ティッシュカバーや、帽子等の新たなドンゴロス製品の考案や製作にも力を入れた。より手頃な価格で商品提供し、さらには親しみやすいドンゴロス商品の提供へとつなげた。

#### ・珈琲製造・販売

ワンドリップの需要が高まり、それに伴い生産数も上昇した。販売目的に応じた珈琲の製造・包装を中心にニーズに合った商品の提供が展開できた。

委託販売店舗においては、4月中旬の震災に影響を受け、契約件数の減少が目立った。また、店舗別にみても売れ行きに較差が見られたため、定期的な訪問や商品の入れ替えやバッグのバラエティーを増やすことで売り上げの増加に繋がった。

販売会では、ドンゴロス製品で低価格な日用雑貨の製作に力を入れ商品のバリエーションを増やし、さらには自畑で収穫した新鮮作物を販売し、バッグ・珈琲に限らない販売種目で売り上げの向上を目指した。また、通年して売り上げにムラが出ないように、季節ごとの進物ギフトのPRや、夏季限定でアイスリキッド珈琲の製造・販売も展開し、今年度も完売となった。ブラックベリージャムの販売実績は例年同様に伸びているが、地とうきび茶は需要が低下し今後の課題となる。

本年度は、熊本県セルフセンターを通じて震災の復興援助を目的とする団体や施設から多くの受注があり、珈琲事業の売上につながった。

#### ④加工事業

##### ・委託事業

現在、(株)お菓子の香梅と(株)三九商会の2件の委託事業を中心に、作業場の整理整頓、衛生面指導を徹底して作業を行っている。本年度4月に起こった地震被災により、5月迄は取引先の稼働待ちという状況にあり作業が停滞した。その後は先方の復興に伴い徐々に作業再開となった。

製函作業は例年並みの売上高となったが、一方の資材加工作業は梱包資材加工に加え、合板加工の受注を兼ね、売上を伸ばすことにつながった。担当利用者が各工程作業を偏りなくできるよう個々の作業習得を図り、効率を上げるためさらなる能力向上に努めた。また、進捗状況を把握しながら報告・連絡・相談・確認を怠らず、無駄のないよう作業を進めた。

#### ⑤生産事業

##### ・地域実習

熊本地震の影響が懸念される中、結果的に仕事量は多かった。比例して新規取引客・売上げ共、伸びることができた。

営業して仕事を獲得した訳ではない。地域事業所間でのロコミによる仕事依頼が殆どであり、利用者の意識の変化・成長が好印象をもたらし、結果につながったものである。

(集中力と体力の養成)(礼儀作法、ルール・マナーの遵守)に加え、平成28年度は(作業の効率化)を重点課題として取り組んだ。作業に使用する台車を2台制作する一方、利用者に工夫してもらうため、一緒に作業をする中でどうしたら良いか実践をまじえて指導を行った。最近をよく事業者から礼儀がいいとか、予定より早く作業が終わって有難い、助かるなどのお褒めの言葉を頂いている。

当初の状況は苦情が多くあり、苦慮することが多かっただけに現在の利用者の仕事ぶりには頭が下がる。

きつい仕事でも積極的に参加する・丁寧に帽子を取って挨拶する行動などだんだん良くなっている。しかしながら課題もあるので、“できることを増やす”観点から利用者の人間性および技術の向上に努め、今後なお一層相談や指導を充実するなど業務に邁進していきたい。

##### ・ブラックベリー栽培

平成28年度は上半期震災の影響もあり、アイスクリームやジャムといった加工製品が思う程に動かなかったが、その後は販売会などのイベント



の回復やギフト関連により、きざしが見えはじめています。

当施設畑のブラックベリーは、新たに増やした樹木の株とともに順調に生育し、春に大量の花が咲いた。リン・カリの肥料が効いてきたことを確信した。夏になってこれまでとは違う大量で大粒の実を収穫できた。天候や害虫の被害の心配もなく済んだ。

その後は、除草や新しい樹木苗の育成に努めた。

・地とうきびの栽培について

地とうきび栽培については鳥獣被害(カラスの大群)や秋ごろに発生した台風による被害はあったものの、何とか収穫量は納得する程確保できた。販売の面では、これまでの商品の内容量を見直しグラム数を減らして販売価格を抑えることで、気軽に購入してもらえるように工夫を行っているが、ブラックベリー製品同様出遅れた感がある

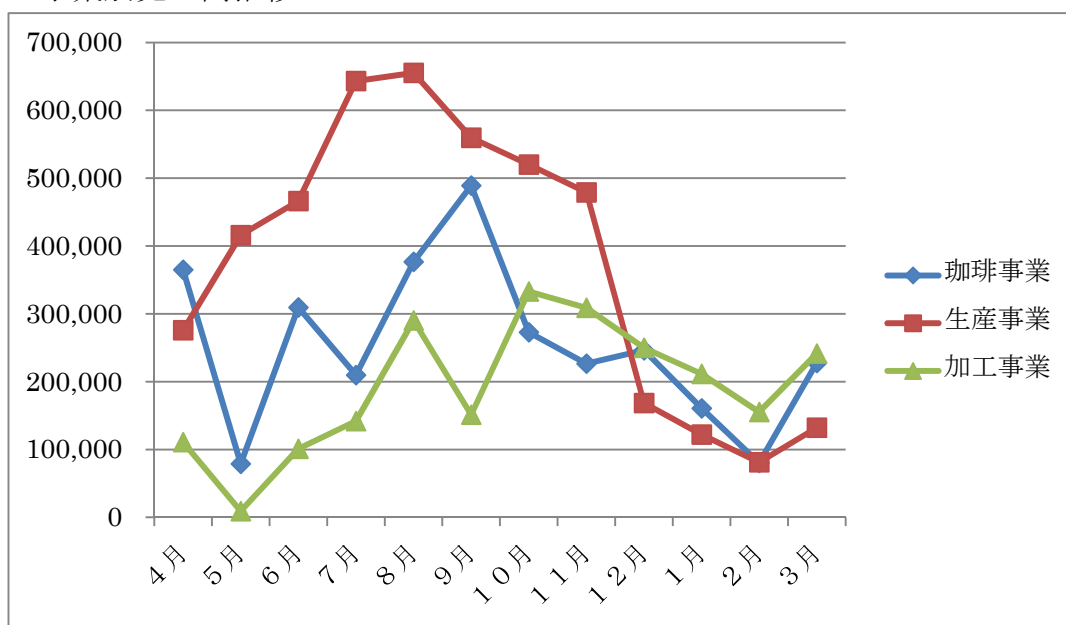
今後の推移を見守り検討していきたいと思う。

・神楽苑トイレ清掃について

朝夕の清掃作業は利用者がローテーションで行っており、施設外作業と同様にあいさつや作業意識の向上に力を入れてきた。職員の方でも同様にローテーションで指導にあたっており、日々の作業の中で、利用者の役割分担や作業の優先順位を掌握するようにした。

今のところ、問題は殆どないので継続して業務にあたりたい。

事業別売上高推移



⑥販売活動

委託先店舗の見直しを行い、商品の動きがない店舗については、販売商品の入れ替えや商品の回収を行った。

本年度は販売会への参加数が少なかったが、販売商品のバラエティーさを重視し、POPの見直しや各イベントのニーズに合った販売会の展開を行った。

口コミやインターネットを介しての一見顧客への販売も数件あり、その中には定期的なリピーターとなるお客様もあった。

シーズンごとに中元・歳暮・バレンタインといった定期的なパンフレット発送を中心にPR活動に取り組んできた。

また、対面式の販売会では珈琲の試飲はもちろん、ブラックベリージャムの試食を提供し、試食された方のほとんどが購入されるケースがよく見られた。本年度は開催される販売会が少なかったが、震災の復興援助活動による、委託販売の依頼があり売上増加につながった。

・H28年度販売会参加一覧

イベント名	期日	場所	売上額 (円)
小国ふくしま祭り	8月6日	JA阿蘇小国郷集出荷場	76,810
なでしこの里夏まつり	8月21日	なでしこの里	9,600
第13回すぎのこまつり	10月22日	小国支援学校	7,950
第2回ほっとはーとマーケット	10月29日	びふれす広場	23,700
JA阿蘇農畜産物販売会	12月3日	びふれす広場	17,650
熊本県庁販売会	1月10日	熊本県庁地下大会議室	13,850
第3回ほっとはーとマーケット	1月21日	びふれす広場	6,350
第25回福祉施設商品販売会	2月24日 ～26日	熊本県庁地下大会議室	28,950
計			184,860

・H28年度熊本大震災における復興援助販売一覧

団体名	取引商品	販売金額 (円)
富士ゼロックス熊本	珈琲	131,670
日本信号株式会社	バッグ	5,000
日本セルフセンター	バッグ	39,600
社会福祉法人 三彩の里	バッグ	15,725
地域活動ホーム ガッツ・びーと	バッグ・珈琲	14,000
計		205,995

## 5、防災関連

本年4月に起こった大震災をうけ、事業所内での負傷者はなかったが災害時対策の見直しや施設内設備等の点検、確認を十分に行った。また、本年度も防災マニュアルの作成及び全利用者、職員の意識向上に努めた。

- ・集会等での意識向上
- ・防災マップの策定
- ・避難訓練の実施
- ・再発防止に向けたマニュアルの策定
- ・避難通路の確保
- ・消火設備の点検
- ・機械等の定期点検及び使用前点検の義務
- ・休憩室等のたばこの後始末についての指導・支援
- ・退勤時の点検
- ・自衛消防防災訓練の実施（1回）

## 6、職員処遇

施設業務に関連した専門知識の向上、習得を図る為授産施設協議会及び社会福祉協議会が主催する各種講習・研修会へ参加した。

- ・主な参加研修会及び講習会

期日	参加研修及び講習会	参加人数
5月31日	熊本県社会就労センター協議会施設長会議	1名
10月19日	社会福祉法人労務研修会	1名
10月24日	障害福祉サービス等従事者基礎研修会	2名
11月1日～2日	九州セルフ研究大会	1名
11月30日	福祉サービス苦情解決研修会	2名
12月1日	社会福祉法人会計実務研修会	1名
12月2日	熊本県社会就労センター協議会施設長会議	1名
2月23日～24日	全国社会就労センター長研修会	2名
3月1日	社会福祉法人会計実務研修会	1名
3月13日	熊本県社会就労センター協議会施設長会議	1名
3月24日	指定障害福祉サービス事業者集団指導	1名

## 7、その他

### ①施設見学

本年度は、市町村や相談支援センター等を通じての施設見学があった。  
事業所の利用開始目的で来館されるケースが主であった。

### ②情報の開示と個人情報保護

施設運営での透明性とサービス事業公開の為ホームページにて公開する。  
又、業務上知りえた情報は法令に遵守し適正に管理し、利用者以外の第三者の請求に対しては、利用者本人へ確認し、同意のもと情報を提示した。

### ③職員について

10月より、新規職員1名の中途採用を行った。職員会議において、各事業担当、利用者ケース担当の変更を行った。